

浅川流域における総合的な治水・利水対策について

2003年12月1日(月)

浅川流域協議会

浅川流域協議会は、浅川ダム中止の方向を受けて流域住民と行政が共に浅川の治水・利水対策等の実現に向け、協議を重ねてきた。流域住民の関心の高さを反映し、会員申し込みは160人に及んだ。当面の治水対策の目標である450m³/sのうち、河川改修でその約8割360m³/sを、流域対策で残りの約2割の90m³/sを処理しようという案に対し活発な意見が交わされた。また、内水対策、土砂対策、千曲川に関連する意見、そのほか終始熱心な議論が続いた。基本高水流量を過大とする一部意見もあったが、「国の認可を得て一日も早い河川改修を進めるべき」との前向きな議論を切望する多数の意見により、450m³/sを前提に議論を行った。

なお、利水に関しては原案に示されておらず、今回の議論はそれを除いて行った。

8月9日の第1回協議会から、12月1日の第8回協議会まで、県が提出した案に対し検討した結果、以下のとおり提言する。

【河川改修原案】

- 1 現在中断している未改修区間の河川改修工事を早期に進めるとともに、浚渫等の維持管理を計画的に実施すべきである。
- 2 流域協議会で出た意見を尊重し、計画的に実施してほしい。
- 3 区間1～3での河床掘削案は、20cmから50cmの河床掘削により10 m³/sから30 m³/s分の流量に対する河積確保をする計画であるが、この区間は河床勾配も緩く、上流からの流出土砂で直ぐに堆砂してしまう。
- 4 区間4の堤防嵩上げ案については、橋梁の架け替えや取付道路の急勾配が生ずる。
また、天井川を解消した区間の計画高水位を上げることとなるため、危険度が増すことが懸念される。
- 5 浅川堤防において、河川土砂(砂礫等)で築堤した部分は脆く、漏水や破堤の危険もあるため、堤体を調査し、天端までの護岸施工や、鋼矢板を打ち込むなど堤防強化の対策が必要である。
- 6 護岸勾配が急だと、親水性が無くまた危険で川に近づけなくなるため、可能な限り勾配を緩く、できれば土堤によって川幅を広げる構造としたほうがよい。
- 7 川からの農業用水等の取水施設は、人為的設備(ポンプ取水等)でなく自然な形での取水とし、維持管理に配慮した設計をすべきである。また、古里地区の4箇所の取水施設は維持管理を考慮した施設への改善を願う。
- 8 次のことから、上流で流量をカットすべき河川施設を計画したほうがよい。
 - ・ 極力、手戻りを避けるべきである。
 - ・ 橋梁の架け替えや取付道路の急勾配を避けるべきである。
 - ・ 河床勾配の緩い箇所での河床掘削は避けるべきである。
- 9 既存の砂防堰堤及び南浅川や上流の適地に砂防堰堤を設置し、この施設に洪水調節機能を付加させたらどうか。
- 10 新眼鏡橋上流の旧河川敷約300m区間に、洪水を一時貯留させる遊水地を設置し、下流河川の流量低減を図ってはどうか。
- 11 基本高水流量450 m³/sに関しては賛否両論の意見もあるが、県が5年程度目処に高水流量等観測を行い再検証する方針のため、原案における嵩上げ、橋梁架け替え、河床掘削については、検証結果を待つべきである。
- 12 当面の治水対策の目標となっている現行の基本高水流量450 m³/sの基本線は崩さないで、本流域協議会から提案したものを早急に検討してもらい、早期に河川整備計画の認可を得るべく国に申請して事業を進めてもらいたい。
- 13 平成16年度は、堆積土砂の浚渫や危険箇所の補修については県単独事業でも実施されたい。

【流域対策原案】

(森林整備などによる流出抑制)

- 1 上流域の開発行為によって伐採された樹木の復元や広葉樹への林相転換、間伐等造林事業によって森林整備を直ちに実施すべきである。
また、スキー場、グラウンド等駐車場や道路について、雨水の浸透整備を図るべきである。
- 2 市営スキー場やオリンピック施設スパイラルを全て撤廃し、森林に戻すべきである。
また、駐車場等も浸透整備するのではなく、植林して森林機能を回復させるべきである。
- 3 市営スキー場等は、市民のスポーツ施設として残すべきである。
- 4 山林での森林整備だけでなく、流域内平地や河川敷等でも公的機関・地域共に植樹を推進すれば水の流出抑制効果が得られるのではないかと。
- 5 排水機場に流れ込む流木対策のためにも、流域全体の森林整備等の総合治水が必要である。

(遊水地による流出抑制)

- 6 遊水地は本計画案に不可欠な施設である。未改修区間の工事や改修済区間での土砂の取り除きによる流量確保も必要である。
- 7 檀田付近の遊水地(約2~3haで5~10万m³貯留)では小さい。上流河道内遊水地と併せて検討が必要である。
- 8 南浅川合流点付近やその上流での河道内遊水地は、地すべり等問題があり、水を貯める施設は造るべきではない。
- 9 田子川合流点付近の遊水地については、外水・内水対策上での検討を踏まえて設置する必要がある。場所については、協議会でも色々提案が出されたが、技術的な見地から検討を行って、適地を示して欲しい。
- 10 遊水地等の用地については、地権者に対する税制面での優遇措置や洪水被害補償等地権者が納得いくものでお願いします。
- 11 通常は農地として利用され、洪水時は遊水地として水害による補償金を出すことは疑問であるため、遊水地の用地は、土地を買い上げて設置すべきである。

(ため池を利用した流出抑制)

- 12 猫又池の老朽土堤については、貯留機能の付加に対する安全性を考慮し、早期に改修工事を実施してほしい。
- 13 ため池を嵩上げして貯留することに不安がある。管理者、地権者、市民等への説明も十分になされていない。

(水田を利用した流出抑制)

- 14 現在でも大雨が降れば水田に水は貯まる。更なる水田貯留は農作物への被害が懸念される。水田貯留の効果は認められるが、個人財産である水田は、転作や貸付・売買等もあり得るし、高齢化や後継者不足により水田耕作の継続保証もない。また、水田一枚一枚に対策を施さないと定量的な値とならないことなどから、ピークカット流量を見込むことは疑問である。
- 15 一般の住宅が守れ、畦までの湛水の計画ならば、水田に貯留することもやむを得ない。水田貯留の方法は、畦畔の嵩上げだけでなく、場所によって畦畔シートも検討すべきである。

(その他)

- 16 総合的な治水対策を行う上で、流域対策の実現に20~30年と言わず、早期に実施し、実現を図るべきである。
- 17 学校、公共施設の地下貯留施設の設置、運動公園の貯留施設の拡大をすべきである。また、上流にある事業所や大型店舗等での貯留の協力及び流域住民の各戸貯留は効果があるため、推進すべきである。
- 18 道路や側溝への浸透整備と用排水路の改修をすべきである。
- 19 北部幹線の下に暗渠水路を造り直接千曲川へ出すことで、遊水地は縮小できる。
- 20 洪水時は土砂等を含んで流れる。遊水地等においては土砂混入があるため、土砂混入やその対策を踏まえた検討が必要である。

《内水対策の検討について》

- 1 約490戸の床上浸水が解消されるなら、排水機場の増設を是非要望する。しかし、千曲川水位によりポンプが稼働できない場合も想定されるのでその対策も講ずること。また、増設に当たっては、ポンプの運転上支障となる流木・ゴミ対策、河道土砂の浚渫及びポンプ前における遊水地の大きさ等の検討を行うこと。
- 2 排水機場の増設については、農家の負担増とならないようにして欲しい。公の負担としていただけないか。
- 3 内水の対策としても、遊水地を設ける等の検討をすべきである。なお、場所については協議会でも色々提案が出されているが、流域対策での河道外遊水地案もあるので、技術的な見地から検討を行って、適地を示して欲しい。
- 4 内水対策は、排水機場の増設案、放水路案、遊水地案の組み合わせを研究すべきである。排水機場の増設案及び放水路案は長野平土地改良区と相談の上決めて欲しい。
- 5 田子川合流点付近は優良農地。地元には有益な施設の兼用を考え、買い上げとして頂きたい。農業は銭・金だけでは出来ない。秋の収穫を楽しみにして苦しい農業をしている。
- 6 宅地30cmの冠水ではなく、目標を0cmとすべきである。
- 7 都市排水については関係機関をあげて対策を進めるべきである。

[土砂対策]

- 1 流木、巨石止め及び土石流対策に、南浅川合流点にスリット堰堤の設置が必要である。
- 2 こまめな堆積土砂の浚渫と、南浅川合流点付近の既設堰堤等の満砂状態をリフレッシュし、土砂ポケットを確保すべきである。
- 3 土砂流出対策として、南浅川合流点付近や上流適地に砂防堰堤や沈砂池を設置し、そこで重点的に、貯まった土砂を適宜浚渫・搬出を行ってはどうか。
- 4 浅川の中流から下流で特に土砂が貯まり易い場所に、土砂貯め施設を河川改修工事と併せて設置し、そこで重点的に排除すれば、砂防施設等は造らなくてもよい。
- 5 下流での土砂貯め施設も必要だが、更に上流での砂防施設も設置が必要である。
- 6 堰堤や沈砂池等コンクリート構造物は寿命があるため、将来を考え築造すべきでない。
- 7 浅川は堆砂が甚だしいため、河川環境に配慮しながら計画的な浚渫を一層強化すべきである。また、大洪水で瞬時に堆積する土砂の排除に予備的費用を確保しておく必要がある。

[千曲川に関連する意見等]

- 1 千曲川の問題については、県や市町から積極的に国へ働きかけをお願いする。
- 2 浅川だけでなく千曲川が問題を起こす箇所を理解して対応していただきたい。
- 3 千曲川の高水敷(耕作地)は土砂の堆積が多い。自然のダムが小さくなっている。砂利採取等を県からも要望願いたい。
- 4 自然災害で一番大きな被害は、千曲川の氾濫である。千曲川が非常に危険であることを認識すべきである。

[その他意見等]

- 1 事業計画の変更等は地域住民に説明を行い、住民との信頼関係を持って、行政は誠意ある対応を行うこと。
- 2 住民が川に関心を持ち、草刈、清掃等地域ボランティアの推進が図られるよう、行政ももっと啓蒙啓発に力を入れて欲しい。
- 3 堰堤、護岸底張工等は環境に配慮したカラマツ間伐材の利用を検討してみてはどうか。

「まとめ」

河川改修原案

国に対し早期に河川整備計画の認可を得て、未改修区間の河川改修にまず手をつけて欲しい。河積確保の計画は理解できるが、浚渫等日ごろの維持管理が前提になる。橋梁の架け替えについては、簡単に行なうべきではなく慎重にすべきである。河川改修計画の中に遊水地も含めるなど、下流流量の低減をはかるようにすべきである。

流域対策原案

森林整備、遊水地、ため池、水田などを利用した流出抑制策は、協力を得られる住民が多いほど効果が上げられる。流域住民の理解を得ながら、流域全体で進めるべきだ。

内水対策の検討について

県の案としてまとめたものではなく、検討段階のものだったが、内水対策も重要な課題として関心の集中した問題だった。機場の増設は切実だが、遊水地の確保等の対策にも取り組みを強めて欲しい。

浅川流域に住む住民が、災害の危険におびえることなく、安心して暮らせることが住民の願いであり、そのための対策をとることが行政の責務である。

浅川ダムに替わって治水対策を進めるには、まず国の認可が必要であることは協議会一同一致し、早期に進めるべきとした。ただ、事業実施にあたっては、地域住民、関係住民の理解と協力がなければ進まない。

行政の誠意ある対応と、流域協議会に参加した一人ひとりがその自覚の基に協力し合って事業が推進されることを願う。